

親潮

第 323 号
令和 6 年度 第 1 号

OYASHIO

北水同窓会誌

2024

323

No.1

北水同窓会のEメールアドレスです

hokusuialumni@gmail.com

ホームページアドレスです

<http://hokusui.net>



「水産科学未来人材育成館」完成



今年の七夕企画の様子



第61回北水祭の会場の様子



北水祭実行委員のメンバー

特集 北水の今

特集 新任若手教員の紹介

- ホームcomingデー案内 寄稿 退職教員あいさつ 定期総会報告 支部会・クラス会報告 追悼 ほか

親潮

第 323 号
令和 6 年度 第 1 号
OYASHIO

CONTENTS

北海道大学ホームカミングデー 2024 水産学部卒業生・在校生のつどい	3
寄稿	4
<small>北水祭実行委員会 委員長 牧野 悠 / 副委員長 川村 菜月</small>	

特集 北水の今

特 集 新任若手教員の紹介	5
退職教員あいさつ	9
<small>綿貫 豊(特別会員) / 佐伯 宏樹(特別会員) / 宗原 弘幸(昭61修卒)</small>	
第102回 北水同窓会定期総会報告	13
北水同窓会総会・懇親会報告	18
<small>高津 哲也(昭63卒)</small>	
支部会・クラス会報告	19
<small>北水同窓会広島県支部会 2023 報告 北水同窓会京滋支部令和6年度総会報告 青森支部令和5年度総会報告 北水柔道部、第6回「漁火会」の集い 青森支部令和6年度総会報告</small>	
追悼	23
<small>佐藤 立治(昭36工)</small>	
学位取得者	24
卒業生の就職先	24
会員の異動	25
親潮投稿規定・編集後記	25
会員死亡通知	26

お知らせ

第103回(2025年)北水同窓会 定期総会 開催案内(予告)

来年の北水同窓会定期総会は大阪で開催の予定です。

◎日時:2025年5月17日(土) 17:00~20:00

◎場所:中之島センタービル31階 うおまん・トップラウンジ31 ◎参加費:8,000円(予定)

会員の皆様には是非ご出席下さいますようお願い申し上げます。

詳細は来年3月の次号でお知らせ致します。

お問合せ先

● 北水同窓会大阪府支部 副支部長 中田邦彦 携帯: 090-2160-1427

● 参加申込: <https://hokusuiosaka.net>の「新着情報」からお申し込み下さい。

E-mail: info@hokusuiosaka.net

または ● 北水同窓会事務局 / E-mail: hokusuialumni@gmail.com Tel/Fax: 0138-42-3681

復活と拡大を目指して

北水祭実行委員会 委員長 牧野 悠／副委員長 川村 菜月

OBOGのみなさん、こんにちは。北水祭実行委員会です！
私たちは第62回北水祭に向けて準備を進めています。企画を考えたり、協賛金を集めたり、パンフレットのデザインを考えたり…やらなければいけないことはたくさんあります。

北水祭はコロナ禍で2年間の中止を経験し、運営のノウハウや先輩後輩との繋がりが完全に途絶えてしまいました。そんな中、北水祭を復活させようとする当時の4年生5人が立ち上がり、3年生をかき集め、なんとか北水祭を復活させたのが2年前の2022年のことです。翌年の2023年には実行委員会の人数も増え、10月8日・9日の2日間にわたって開催された第61回北水祭の延べ来場者数は、なんと1637人！近隣の大学の学祭にも引けを取らないほどの数字です。第61回の北水祭では「屋外ステージ」を建設し、ご当地ヒーローイカダベッサのショーや各サークル発表など大いに盛り上がりました。北水祭の復活から2年、北水祭も元の輝きを取り戻しつつあります。

今年の10月13日・14日に開催される第62回北水祭のテーマは「SeaReal. リアルな水産を友達と。」今はやりのアプリ「BeReal」をアレンジしたテーマです。「水産学部のリアルな姿を地域の人に伝える」「学生が友達と一緒に北水祭を楽しんでほしい。」そんな思いが込められています。

私たち北水祭実行委員会はこのテーマを体現するために、北水祭をさらに「拡大」させたいと思っています。今年が目玉企画として、ここしばらく行われていなかった「水族館企画」を復活させます。水産学部の研究室で研究されている魚を展示、さらには実際に触れ合うこともできるタッチプールを設置する予定です。さらに函館市の協力もあり、キングサーモンの展示も行います！多くの先生方・学生の皆さんからのご協力によって水族館企画を復活させることが出来ます。大変感謝いたします。

これまでよりさらに規模の大きな北水祭を実現するために、私たち北水祭実行委員会では、現在「協賛活動」に取り組んでいます。水産学部近隣のお店に広告協賛を依頼したり、大学生の行きつけのお店をお願いしたり、函館中を駆け回っています。また、近隣の小学校や幼稚園にも協力していただき、七夕企画を実施し、近隣の子どもたちと交流の機会も作る事ができました。他にも10月の北水祭開催を目指して着々と準備を進めています。こんなにも地域の皆さん

と関わることが出来るのは、函館の良いところです。

毎年恒例の格安マグロ丼の販売、水族館、屋外ステージでのパフォーマンス、模擬店・展示企画、写真コンテスト、研究室ツアー、縁日、後夜祭など、小さなお子様から大人まで、北水生も全員が楽しめるコンテンツが盛りだくさんです！10月13日・14日は北水祭へぜひお越しください！

現在、北水祭に向けて、寄付金も募っております。こちらでもぜひご協力いただければ幸いです。今後とも応援よろしくお祈りします！



北水祭実行委員のメンバー



第61回北水祭の会場の様子



北水祭名物のマグロ丼

寄付ご協力をお願い

現在、北水祭実行委員会では第62回北水祭の開催に向けて準備を進めております。しかしながら、近年の物価高もあり、資金について実行委員会だけで賄うのは厳しい状況です。つきましては、OBOGの皆様からご支援・ご援助賜りたくご案内した次第でございます。私どもの活動にご賛同していただける方は、右記のQRコードから詳細をご確認ください。何卒よろしくお祈りいたします。なお、振込方法やその他のご質問がございましたら、以下の連絡先までお気軽にお問い合わせください。

◎問い合わせ先／hokusuifes.ouen@gmail.com

寄付申し込みフォーム：<https://forms.gle/D1ktHiKTKyYNdNFR8>



新任若手教員の紹介

萩原 聖士(特別会員)



バンクーバーで釣ったシロチョウザメと

Q1. 着任時期と前職は？

2023年3月着任。前職は東京大学大気海洋研究所で学際教育プログラムの特任講師をしていました。2012-2017年にはポスドクとして北大水産に在籍していました。

鹿児島(出身地)→東水大/海洋大(学部)→東大大海研(大学院)→北大水産(PD)→日大生物資源(PD)→東大農(PD)→東大大海研(特任教員)と回遊して参りましたが、北大七飯にしっかりと根を下ろさせていただけます。

Q2. 主な研究テーマは？

学生時代は東南アジアのジャングルに長期滞在して熱帯ウナギの生態研究、北大でのポスドク時代はチョウザメの生殖生理研究に従事していました。

現在興味があるのは魚類の回遊・繁殖・闘争・死などの現象で、サケ科、ウナギ属、チョウザメ科を対象に飼育実験・ラボワーク・フィールドワークを組み合わせた研究をしていきたいと考えています。着任1年目はほとんど研究できない状態でしたが、今年4月から学生が所属してラボを始動することができました。いろいろ立ち上げ中です。

Q3. 今後の展望は？

七飯淡水実験所に求められる機能が多様化してきています。着任1年目の不慣れな状態で不細工に藻掻きながら、他大学の実習の受け入れ、高校教員の研修の受け入れ、企業を対象としたリカレント教育プログラムの提供などを行いました。「北大トラウト」商標による余剰魚の販売も開始しました。大いに成長できた1年でした。これからも社会のニーズに対応できる実験所でありたいと思います。また、従来の利用者にこれまでどおり実験所を研究に活用していただくとともに、新規利用者の要望に添えるよう必要な変化は厭わない所存です。

自分の研究では、学生時代の指導教員の塚本勝巳先生がよく口にされていた「学問の高み」を目指したいのですが、それが何なのか正直よく分からず、まだ何も見えていません。せめて自己満足できるように愚直に研究に向き合っていきます。

Q4. 函館の印象&休日の過ごし方は？

休日は家族で過ごしています。食べ物が美味しく大自然に容易にアクセスできる函館の暮らしを、妻も5歳の娘も気に入ってくれました。私の都合で無理矢理連れてきたのでかなりホッとしています。家族でキャンプを楽しめるようになったのが嬉しいです。

Q5. 最後に一言

七飯淡水実験所は常駐教員1名の小規模施設ですので、今は不慣れな管理運営や実習受け入れで精一杯です。前任の山羽先生のように上手くはこなせないかもしれませんが、多くの教員と学生が教育と研究に利用してきた重要な施設ですので、引き続き有効活用していただけるように尽力致します。

辺 浩美(平28資化)



Q1. 着任時期と前職は？

2022年4月です。2013年に北海道大学水産学部に入學し、そのまま博士後期課程まで進学、2022年3月に修了しました。

Q2. 主な研究テーマは？

私はこれまで一貫して海洋天然物の研究を行ってきました。この分野はシャープな生理活性を示す低分子化合物が注目されがちですが、私は海綿に含まれる、あるタンパク質に着目してきました。このタンパク質はどういう訳か、ヒトの血小板を作るサイトカインと似た働きをするのです。最も原始的な多細胞生物といわれている海綿に、なぜヒトの血球分化を左右する成分が含まれているのか？どのように作用しているのか？学生時代はこの問いに魅了され、追いかけてきました。その他にも海洋生物由来のタンパク質から強烈な毒性を示すもの、いとも簡単に細胞へ侵入するものなどを見出し、これらのメカニズム解明を目指し研究を進めています。

Q3. 今後の展望は？

これまでは海洋生物の成分からヒトに対する生理活性物質を見つけることを目標に研究してきましたが、改めて海に潜り生物を観察していると、なぜこんな色、形をしているのか？と不思議に思うことがたくさんあります。例えば、写真はウミシダという棘皮動物に共生するエビの様子です。このエビは宿主とするウミシダの色と同じ体色を呈しています。しかし、どのように宿主と体色を類似させているのか？その色を発する物質は宿主由来のものなのか？分からないことだらけです。サンプル採集を手伝ってくれるプロのダイバーに話を聞くと私たちの知らない興味深い観察をたくさん持っており、研究テーマの宝庫だなと感じます。このように色々な方の力を借りながら、化合物の視点から海洋生物の生き様に迫る研究にも挑戦していきたいと考えています。

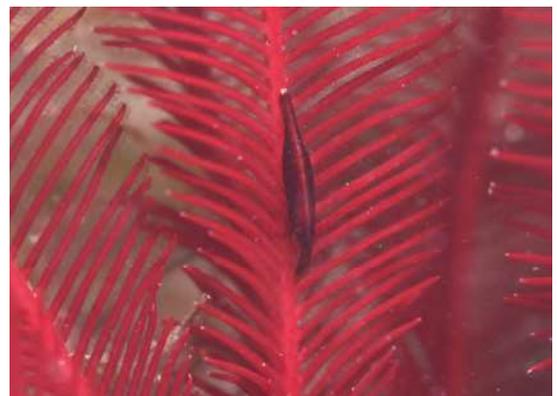
Q4. 函館の印象&休日の過ごし方は？

学部3年生で札幌から函館に引っ越してきて今年で10年目と、いつの間にか人生で一番長く過ごした場所になりました。当初は“田舎すぎる！”と不満に思っていたのですが、最近では東京出張などから帰ってくると、静かで穏やかなこの街にホッとします。

休日は研究室に学生のいない静かな実験室で、普段あまりできない新しい実験にチャレンジしています。

Q5. 最後に一言(あれば)

教員という立場になり、学生の指導など戸惑うことも多いですが、毎日、“今日もよく働いた、ビールが美味しい！”と思えるよう元気に研究を進めていきます。皆さんにも面白いと思っただけの研究成果をご報告できるよう頑張ります。

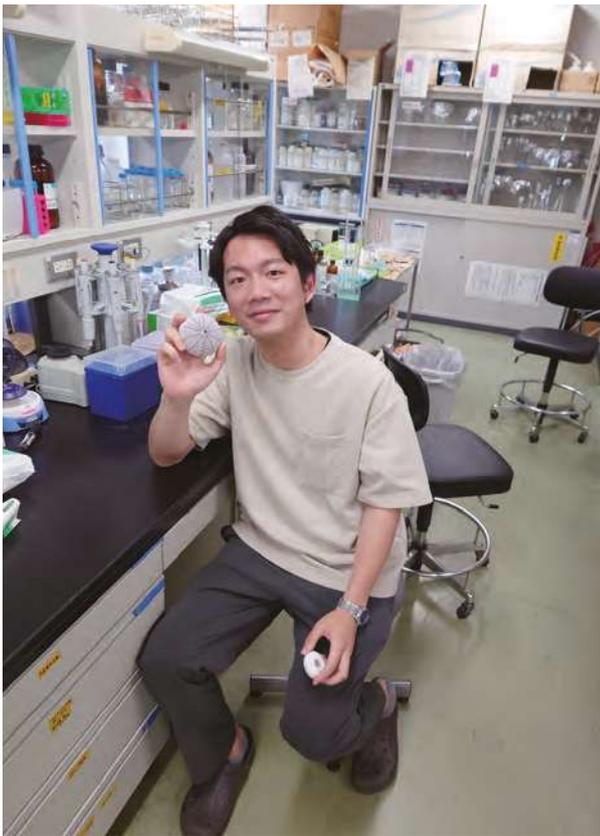


ウミシダと共生するエビ(金原悠祐氏提供)



驚くほど上手く宿主の色を模倣しています。写真には2匹のエビが隠れています。

樋口 一郎(平28増生)



Q1. 着任時期と前職は？

2023年4月です。以前は日本たばこ産業株式会社にて研究職として勤務していました。

Q2. 主な研究テーマは？

海藻群落を造るためのウニ殻を利用した施肥材の開発とその施肥材に対するウニの行動観察/解析です。



学生と一緒にウニ殻を干して施肥材(右下)を作製している様子

ウニなどの食害や栄養塩の不足によって、海藻群落が著しく衰退する“磯焼け”が問題となっています。そこで、ウニによる食圧の抑制と栄養塩の供給を両方可能とするウニ殻を原料とした施肥基材(ウニ殻施肥材)を開発しようと考えています。研究室で作製したウニ殻施肥材から、アンモニウム態窒素やリン酸態リンなどの栄養塩が一定期間継続的に溶出することが確認でき、ウニ殻を利用した施肥材の可能性が見えてきました。また、ウニの死骸から抽出した成分がウニの忌避行動を引き起こすといった報告があることから、ウニ殻施肥材がウニの忌避行動を誘発する効果を持つ可能性があると考え、検証するための試験系を構築しているところです。

Q3. 今後の展望は？

“磯焼けの原因であるウニを使って藻場を再生する”ことを目的に、ウニ殻施肥材の効果検証を進めながら、現場への実装を見据えた実証試験を行っていく予定です。将来的には、ウニ殻施肥材の開発に限らず、磯焼け海域に生息する未利用なウニの養殖技術開発等、海の豊かさの象徴である藻場を保護/再生する技術の確立に貢献するような研究を幅広く実施していきたいと考えています。

Q4. 函館の印象&休日の過ごし方は？

歴史があり、風情ある街です。また、釣り好きには最高の街だと思います。休日にはもっぱら釣りに行くことが多いのですが、少し車を走らせれば魚影の濃い魅力的な釣り場に行くことが出来る環境はとても恵まれているなあと感じています。学生と一緒に釣りに行ったり、

冬になればスノーボードをしたりと、四季を感じながら休日を過ごしています。

Q5. 最後に一言(あれば)

研究でもプライベートでも海との距離がすごく近く、様々な恩恵を受けています。そんな大切な海を守ることにつながる活動が出来たら幸せです。

永田 淳(平26増生)



Q1. 着任時期と前職は？

2021年4月です。北水における博士学位取得・ポストク研究員を経て、北海道立総合研究機構 網走水産試験場に勤務しておりました。

Q2. おもな研究テーマは？

現在は水産生物の感染症に関する研究を行っています。増養殖業において、感染症の発生は大きな産業被害をもたらしています。水産生物の感染症は、ウイルス・細菌・原虫等の微生物や寄生虫により発生します。私の研究では、このような病原生物を対象とし、感染症の発生メカニズムや防除方法に関する研究を進めております。

Q3. 今後の展望は？

今後の研究内容としては、サケ科魚類の増養殖で大きな被害をもたらしている感染性造血器壊死症

(IHNV)に関する研究は始めたいと考えております。また、機会があれば、南方の増養殖対象種で発生する疾病についても研究対象としたいと考えているところです。私自身、学部～博士課程は水生生物の繁殖生理、水試時代はホタテガイの増殖に関する研究を行っておりました。水産生物の疾病を研究する者としては、少々珍しいバックグラウンドを持ちますが、この経験を生かして、今後は水産生物の感染症に関する研究を続け、被害低減に尽力したいと考えております。

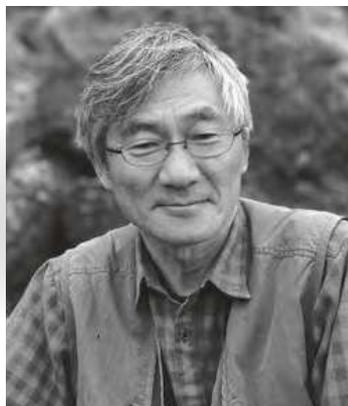
Q4. 函館の印象&休日の過ごし方は？

函館は学生時代より住み慣れた土地で、非常に過ごしやすいです。おいしい食べ物も多く大変気に入っています。休日は妻子と過ごすことが多いですが、趣味の釣りに行くことも多いです。最近はフライフィッシングに注力しており、学生の頃通り詰めた川へまた通う日々を過ごしております。今年はまだまった時間を見つけて、道北へイトウ釣りに行きたいと考えております。

Q5. 最後に一言(あれば)

先日の東京での北水同窓会に出席させていただきました。その際はOB・OGの皆様大変お世話になりました。貴重な機会を設けていただきましたこと、改めてお礼申し上げます。次回の大阪総会(2025年5月)にも出席予定ですので、お気軽にお声がけいただけますと幸いです。皆様、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

退職教員あいさつ



海鳥の研究をするようになったわけ

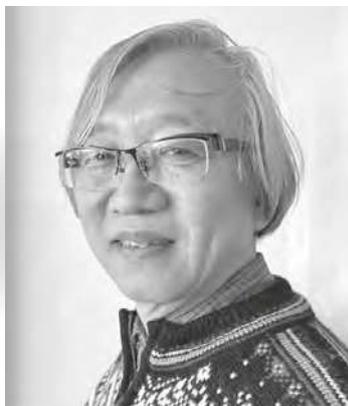
綿貫 豊 (特別会員)

1959年長野市で生まれ千曲川で育ち、1977年北海道大学理類に入学、ヒグマ研究グループに入りました。北大天塩演習林での春合宿での飯場共同生活と残雪の針広混交林の強烈な印象が今でも思い出されます。その年の夏、先輩に勧められてキャンプした天売島でのウミネコとウトウの大群に圧倒され、海鳥をやろうと心に決めました。翌年秋から農学部の実用動物学講座に移行しました。「鳥好き」にとって、自由にしかも「学問として」鳥の観察ができることが嬉しくてたまりませんでした。カモメ類の生態研究で1987年秋に農学博士号を得て、その年の12月に国立極地研究所に助手として採用いただきました。当時北大水産におられた小城春雄先生と水産出身の極地研究所の福地光男先生のご紹介だったと後で知りました。南極昭和基地と東京と半々の生活を送りながら、それまで日本では海鳥の繁殖生態の研究を進める体制がなかったので、なんとかしたいと考えていたところ、農学部の先輩から声をかけていただき、1994年北大農学部助手として戻りました。多くの学生とともに研究を続け、仲間を増やすことができましたが、海鳥の生活を深く理解するには海洋のことを知らないとダメだなという思いが強くなりました。

ちょうどその頃、小城先生の後任ポストに応募しないかとお声がけいただき、2003年に水産科学研究院に助教授として転任しました。それまで海洋学に関連する教育を受けていませんでしたので、乗船実習やゼミそして関連学会の大会などで専門の先生方から直接ご指導いただき、海洋科学を学んだことで大きく世界が開けました。水産学部では多くの先生方、学生さんから刺激を受け研究のヒントをもらいました。そのなか

ら、異分野の研究者との共同作業がはじめることもできました。東京農工大学の高田秀重先生との海鳥から海洋汚染を探る共同研究はとても実りあるものでした。海洋学の知識を持っていなかった強味(?)をバネに、海鳥の視点から海を観ることに力をそそいできました。

極地研に就職した当時、バイオロギング技術の開発が内藤靖彦先生のもと世界に先駆けて行われており、そのタイミングに出会えたのは大変な幸運でした。この技術を使って、海上や水中での海鳥の行動をはじめて明らかにする研究ができましたし、水産学部に移ってからは船からの目視という私にとってはわくわくする調査をして、海洋物理、プランクトンや魚類学、衛星リモートセンシング、音響探査といったあたらしい武器をもって海鳥の生活を知ることができました(「海鳥の行動と生態:その海洋生活への適応」生物研究社)。海洋生態系の重要な捕食者であり、そして唯一我々が海上から観察できる海洋生物である海鳥の特性や役割に迫れたと思っています。学生の力で続けられた40年にわたる天売島での海鳥の餌と繁殖成績のモニタリング結果を水産学部で得た海洋科学の知識から解釈することで、気候変動が高次捕食者へどういった影響を与えるのか理解を深めることもできました。学生時代を含めるとのべ40年近く北大にお世話になりました。振り返ってみると、若い頃この自然豊かな北海道の地ですごした一見無駄な時間、とくに教養学部(当時)でのなにも生み出さなかった時期が非常に大切だった気がします。今後は、札幌で北海道民として自由の身で海鳥の現状調査や保全活動(「海鳥と地球と人間」築地書館)に取り組んでいきたいと考えています。



退職にあたって

佐伯 宏樹 (特別会員)

31年間にわたり恵まれた環境で学問に取り組めた幸運に感謝しつつ、令和5年度末をもって定年退職いたしました。平成5年に水産食品実習工場の助教授として、企業技術者から大学人に転身・着任した際には、直ちに、施設老朽化という大きな問題に直面しました。しかし、当時35歳の若造を支えてくださった水産食品学科の諸先生方と、工場専任技官であった杉浦訓氏と伊勢谷善助氏の献身的なご協力によって、時間をかけつつも着実に教育環境を改善することができました。そして国立大学法人化後には、技術専門職員の清水 裕博士をはじめとする事務部門の皆様にも多大なサポートをいただき、恒例行事のJICA国際研修やシンガポール国立大学共同サマーコースの一翼を担える体制となりました。実習・技術教育の改善に少しでも貢献できたことを嬉しく思うとともに、ご尽力いただいた関係各位に御礼申し上げます。

水産食品科学と水産資源利用学の教育・研究に携わる大学人としては、常に、未利用水産資源の高度利用を念頭に置いて活動し、実学としての水産科学の発展にいささかでも貢献できたと自負しております。また、機能成分の探索とは違う視点での研究を志向した結果、化学的に不安定な魚肉タンパク質に糖鎖を導入することで、加工特性と健康機能性を付与・増強することに成功しました。この分子メカニズムの一端を遺伝子レベルで検討した際には、共同研究者として最新の手法を積極的に活用した大学院生諸氏の労を多としたいと思います。また、発生生物学がご専門の原彰彦教授とともに魚卵アレルギー研究に着手し、世界で初めて魚卵アレルゲンを特定し、清水 裕博士とともにその消化吸収動態の一端を理解することができました。専門性の異なる教授陣が一堂に会している水産学部の強みを活用できた一例として、誇らしく思います。

明らかにしたいことはまだ山積していますが、さまざまなできごとを思い起こすと、ともに研究を進めてきた学生諸氏の顔が浮かびます。学生諸氏との議論と膝を交えての交流が、マンネリズムとは無縁な学究生活の原動力となりました。現在、社会でご活躍中の卒業生各位には、心から感謝申し上げます。

大学運営では、学部入試委員会と教務委員会の委員長を計8年間努め、またアドミッションセンター総務部門員として学部総合入試と国際総合入試の運営に4年間携わりました。そして、総合入試に対応した学部教育体制の整備と、函館キャンパスにおける学芸員資格と教職免許の取得に関わるカリキュラムの再編・整備に携わることができました。この間、特に教務・学生担当の皆様には専門的視点から議論にご参加いただき、多大なご協力を賜りました。ともに仕事を進めた皆さんとの一献は、なにものにも代えがたい安息の時間でした。

2011年の総合入試制度の導入は、水産学部の学生選抜と初年次教育に大きな影響を与えました。制度導入から10年以上が経過し、教育上の諸問題の解決が共通認識となっているのではないのでしょうか。現任教職員の皆様には、これから対応されるであろう制度改正に英知を結集され、効果的な立案がなされることを期待申し上げます。

北海道は、私の専門である水産食品学にとって重要な地域であり、その地にある函館キャンパスで培った北海道への愛着は、私にとって最も大事なアイデンティティのひとつです。素晴らしいフィールドでの現役生活を全うし、北大OBとして卒業することを誇らしく思い、ここに退職の挨拶とさせていただきます。

最後に、水産科学研究院・水産学部の益々の発展と、同窓の皆様のご健勝を祈念申し上げます。ありがとうございました。



白尻水産実験所で過ごした 時間をふりかえる

宗原 弘幸(昭61修ギ)

白尻水産実験所の教員となって32年、大学院生時代を含め40年間を函館で過ごしました。その間、カジカやアイナメ、トクビレやダンゴウオなど、北海道に生息する磯魚たちを相手にしてきました。生物学的には興味深い生き物ですが、水産資源としては未知な仲間。これらの研究をさせてもらえた水産科学の懐の深さに感謝いたします。

地史や生物史の時間に比較すると、教員の世代時間はわずかなはずですが、さまざまなことを経験し、北海道の海や海の生き物の変化を観察することができました。温暖化と暖流強勢による環境変化に対して、太平洋沿岸は敏感に反応し、特に寒流と暖流が衝突する海域では、変化が増幅するようです。その激変過程を水産実験所という定点で観察できたことは貴重な体験でとても幸せなことでした。恵山岬で喧嘩して、以南はエゾアワビ、以北はオオバンヒザラガイが棲み分けるようになったという、道南あるある伝説は何処へやら、恵山を超えて室蘭までが今や北海道最大のエゾアワビ産地。『真昆布の里、南茅部町』も町村合併(2004年)で町名が消滅後、南かやべ漁協の特産品として名を残すものの天然物は希少になりました。まためっきり減少したカジカ類やシワイカナゴなど寒冷性の魚たちに替わって、珊瑚礁が生息地であるはずのハコフグやハギ、スズメダイ、チョウチョウウオ、フエダイ、ハタタテダイなど熱帯魚(の幼魚)が海藻の森を回遊する光景には、ひと昔前の北海道の海を知る方々は驚かれるでしょう。研究対象のアイナメは、最近増えてきましたが、温暖化

というよりも海に投棄された魚網や護岸工事のお陰。複雑なテクスチャーの人工物が産卵基質に適しているため、こちらは人間活動によるダイレクトの影響。日々いたる所で海の中はバージョンアップされ、この先どのように変わっていくのか、楽しみで仕方ありませんが、世代時間が来たので後進に譲ります。

教員としては、学部改革や大学改革など過渡期に遭遇し、北方生物圏フィールド科学センターへの合流(2001年)、また49年ぶりの実験所の改築(2019年)に関わることもできました。センター移籍後は人徳がなく不本意なこともありましたが、ひとり職場の自由度と開放感は何物にも換え難く、白尻の海で過ごした時間を振り返ると楽しい思い出しか浮かびません。大過なく無事、定年退職を迎えられたことを実験所に関わられた皆様に感謝を申し上げます。ありがとうございました。

ご寄附のお願い

150th
HOKKAIDO UNIVERSITY

北海道大学
創基150周年記念募金
(北大フロンティア基金)

2026年、北海道大学は創基150周年を迎えます。

多様な人材が持続的に新たな価値を生むキャンパスへの転換に向けた「人と人を、時を、緑を、夢を、実を、結ぶ」をキーコンセプトとする古河講堂の改修・利活用事業や、未来社会を創造する人材育成事業「Innovation Front Runner (仮称)」など、次の150年を見据えた記念事業のため、2023～2026年度の4年間、北大フロンティア基金は「創基150周年記念募金」として、皆様からのご寄附を募集しております。

寄附方法

北大フロンティア基金ウェブサイトの「寄附をする」から、ご寄附方法(クレジットカード決済、郵便振替・銀行振込、コンビニ決済)を選択のうえ、お手続きください。



URL ▶ <https://www.hokudai.ac.jp/fund/>



個人の方▶



法人・団体の方▶



クレジットカード決済により、継続寄附(毎月・年2回・年1回いずれかの引落し)をご利用いただけます。また、お申込み時に会員登録いただくと登録内容の修正・解約などがインターネットで随時行えます。

お問い合わせ先

北海道大学広報課卒業生・基金室
(基金事務担当)

〒060-0809 札幌市北区北9条西6丁目 北海道大学百年記念会館内
TEL 011-706-2017 FAX 011-706-2010
E-mail kikin@jimu.hokudai.ac.jp

卒業生の
つながりを、
デジタルで
強くする。

アルムナイ・コミュニケーション・ベース

ELM TREE
Alumni Communication Base Since 2023

登録
無料
Free

人のつながりは、北大の財産です。
大学と同窓生をつなぐ
プラットフォームツールとして
ELM TREEを整備していきます。
登録にご協力ください。

大学と同窓生をつなぐプラットフォームとして、アルムナイ・コミュニケーション・ベース「エルムツリー」の運用を開始しました。「エルムツリー」は、北大卒業生のデータベース「卒業生電子名簿機能」と大学・同窓会からの情報発信「卒業生連携機能」で構成されています。

URL ▶ <https://alumni-net.dpe.hokudai.ac.jp/>



お問い合わせ先

北海道大学広報課卒業生・基金室
(卒業生・校友会エルム担当)

〒060-0809 札幌市北区北9条西6丁目 北海道大学百年記念会館内
TEL 011-706-2102,3045 FAX 011-706-2010
E-mail info-slu,mi-net@dpe.hokudai.ac.jp

北水同窓会総会の報告

●開催日時:令和6年5月25日(土) 18時00分より

●会場:学士会館2階会場

出席者

〈本部参加者〉

横山 清 (昭35エ)	同窓会長(㈱アークス 代表取締役社長)	井上 晶 (平5化)	北水同窓会 会計部
都木 靖彰 (昭59ゾ)	北海道大学水産科学研究院長	西村 俊哉 (平21生)	北水同窓会 組織部
高津 哲也 (昭63ギ)	北水同窓会 幹事長	永田 淳 (平26増生)	北水同窓会 編集部
田中 啓之 (平元化)	北水同窓会 庶務部		

〈参加者〉

杉田 哲夫 (昭32エ)	白井 暁 (昭54ゾ)	江川 栄一 (昭63ギ)	福原 庸介 (平11生)
漆畑 信昭 (昭34エ)	川村 剛 (昭55ギ)	鈴木 睦明 (平元食)	佐藤 公彦 (平12生)
浅倉 健治 (昭36セ)	辻 信之 (昭55ギ)	田中誠一郎 (平3ギ)	森本 健吾 (平12生)
石川 光男 (昭36セ)	小林 次郎 (昭55ゾ)	片山 晴康 (平3ギ)	阿部 一世 (平13資)
角田 靖雄 (昭36セ)	及川 晋 (昭56ギ)	國田 英紀 (平3ギ)	鈴木 賢一 (平13資)
新田 實 (昭36セ)	菊繁 一郎 (昭56化)	釜谷 明 (平3食)	高橋 実 (平13資)
西川 雄造 (昭36セ)	菊繁由加利 (昭56食)	吉田 明彦 (平3食)	中内 崇善 (平13資)
澤田 眞治 (昭37セ)	久保田千春 (昭56化)	高木 繁郎 (平4ギ)	佐伯 明彦 (平14シ)
山成 克二 (昭37セ)	引地 聰 (昭56化)	山田 正克 (平4ギ)	斉藤 朋子 (平15海)
石黒 祥之 (昭40セ)	水戸 康順 (昭56化)	松本 偉 (平5ギ)	中林 祐輔 (平16資)
金曾 裕一 (昭40セ)	岩井 弘光 (昭57ギ)	高木美枝子 (平6ギ)	藤原 智史 (平16シ)
菊本 肇 (昭40ギ)	西巻 公路 (昭57ギ)	竹川 直子 (平6ギ)	松倉 広平 (平16資)
谷口 旭 (昭40ゾ)	神谷 慎一 (昭57食)	東 剛己 (平6化)	鈴木 潤一 (平17シ)
真嶋 俊平 (昭41ギ)	並木 秀夫 (昭57食)	山本 剛司 (平6食)	澤口 譲 (平18資)
下村 政雄 (昭41ゾ)	門田 憲二 (昭57食)	織田 啓介 (平7ギ)	山岸健太郎 (平18資)
小平 紘之 (昭42エ)	金庭 正樹 (昭57化)	笹原 敏明 (平7ギ)	山田 憲 (平18生)
重田 親司 (昭44エ)	滝澤 哲也 (昭57化)	後藤 英輔 (平7ギ)	前田智恵子 (平19資)
古谷 眞水 (昭44食)	山本 隆 (昭57化)	山野寺健一 (平7食)	成田 暁 (平23海)
金田 正裕 (昭46ギ)	中津 達也 (昭57ゾ)	島袋千恵子 (平8食)	黒沼 宗弥 (平26資化)
高野富輝夫 (昭49化)	山田 陽巳 (昭58ゾ)	公平 智子 (平8食)	佐藤 卓史 (平26増生)
吉田 猛 (昭50ギ)	橋本 浩典 (昭59ギ)	中原 千秋 (平8食)	陳天燕(チンテン)
樋口 達夫 (昭50食)	廣瀬 裕 (昭59食)	半谷いづみ (平8食)	(平26増生)
志村 謙介 (昭50ゾ)	舟木 謙二 (昭59食)	山本 哲章 (平8食)	久保田光矢 (平27資化)
菅原 謙二 (昭51ギ)	奈良 雅夫 (昭59ゾ)	石黒 裕康 (平8化)	後藤 直英 (平27増生)
吉田 和彦 (昭51ギ)	倉部 徹 (昭60ギ)	太田垣亜紀子 (平8ゾ)	木下 海翔 (平28海資)
渡辺 好一 (昭51ギ)	伊藤 修一 (昭60化)	坂井 雄志 (平8ゾ)	渡邊 大輝 (平30海生)
浜谷 一郎 (昭51化)	滝澤 和宏 (昭60化)	丸林由利子 (平8ゾ)	佐々木裕史 (平30海生)
林 信二 (昭52ギ)	中田 邦彦 (昭61食)	蓑島 佳代 (平8ゾ)	藤本 一品 (令4海生)
安田 弘義 (昭52ギ)	小泉 玲 (昭61ギ)	菅野 真人 (平9ギ)	杉本 千尋 (令4増生)
大村 富範 (昭52食)	坂野 泰弘 (昭61食)	横田 哲也 (平10ギ)	豊川 剛至 (令6資化)
寒河江正博 (昭54ギ)	小島 茂樹 (昭61化)	今村 浩二 (平10食)	池田 直幸 (令6増生)
青木 宏行 (昭54ギ)	伊藤 浩 (昭62化)	茶木 貴光 (平10食)	
福田 研二 (昭54ギ)	中川 興 (昭62化)	後藤 大受 (平10化)	

■総会次第

1. 開会の辞

庶務部 田中 啓之(平元化)

2. 会長挨拶

会長 横山 清(昭35エ)

3. 名誉会長挨拶

名誉会長 都木 靖彰(昭59ゾ)

4. 議長選出

5. 議案第1号

令和5年度事業経過報告および

会計決算報告

(1) 一般経過報告

幹事長 高津 哲也(昭63ギ)

(2) 庶務部報告(資料1)

庶務部 田中 啓之(平元化)

(3) 編集部報告(資料2)

編集部 永田 淳(平26増生)

(4) 組織部報告(資料3)

組織部 西村 俊哉(平21生)

(5) 会計部報告(資料4)

会計部 井上 晶(平5化)

(6) 会計監査報告

監事 向井 徹(昭61ギ)

6. 議案第2号

令和6年度事業計画および予算案

(1) 令和6年度役員改選案(資料5)

庶務部 田中 啓之(平元化)

(2) 令和6年度事業計画案

幹事長 高津 哲也(昭63ギ)

(3) 第103回(令和6年度)定期総会開催地(大阪)について

幹事長 高津 哲也(昭63ギ)

(4) 令和6年度予算案

1. 会計部予算案(資料6)

会計部 井上 晶(平5化)

2. 編集部予算案(資料7)

編集部 永田 淳(平26増生)

3. 組織部予算案(資料8)

組織部 西村 俊哉(平21生)

7. その他

8. 閉会の辞

庶務部 田中 啓之(平元化)

■令和5年度 庶務部報告(資料1)

1) 新入会員数

海洋生物科学科	54名
海洋資源科学科	51名
増殖生命科学科	48名
資源機能化学科	37名
大学院(他大学、他学部出身者)	
修士	6名
博士	2名
合計	198名

2) 本年度物故者(令和5年度親潮掲載分)

正・準会員	66名
名誉、特別会員	1名
合計	67名

3) 会員現在数(3月9日現在)

正・準会員総数	16,855名
物故正・準会員数	3,873名
正・準会員現在数	12,982名
(内準会員数)	(14名)
特別会員数	71名
会員数合計	13,053名

4) 新入会員を含めた会員現在数(3月9日現在)

合計 13,251名

令和5年度 編集部報告

(親潮発行)(資料2)

	号数	発行年月日	全頁数	印刷部数	印刷費	摘要
予算	321号	令和5年8月末	本誌 32頁 (内カラー7頁)	8,000	1,000,000	※1
	322号	令和6年2月末	本誌 32頁 (内カラー7頁)	8,000	1,000,000	※1
	合計		64	16,000	2,000,000	
決算	321号	令和5年8月22日	本誌 28頁 (内カラー11頁)	7,900	1,034,110	※1
	322号	令和6年3月6日	本誌カラー 28頁 (内カラー11頁)	7,800	1,025,310	※1
	合計		56	15,700	2,059,420	

※1 印刷会社：祐三和印刷 印刷費には別刷り振替用紙代、消費税を含む

令和5年度 組織部報告

(名簿会計)(資料3)

	項目	予算額	決算額	摘要
収入	前年度繰越金	202,198	202,198	
	一般会計より繰入 受取利子	1,000,000	1,000,000	名簿積立金
	合計	1,202,198	1,202,206	
支出	次年度繰越金	1,202,198	1,202,206	
	合計	1,202,198	1,202,206	

(繰越金の内訳 ゆうちょ銀行 1,202,206円)

令和5年度 会計部報告 (資料4)

1) 一般会計決算報告

	項目	予算額	決算額	摘要	
収入	前年度繰越金	1,559,414	1,559,414	1705名 予算1700名	
	会費	6,800,000	6,821,500		
	特別会計より繰入	3,000,000	3,000,000		
	親潮広告料	160,000	360,000		
	雑収	100,000	177,798		
合計	10,608,419	10,903,944			
支出	親潮印刷費	2,000,000	2,059,420	(資料2) 親潮発送費2回分含む 東京開催	
	通信・運搬費	2,000,000	1,861,916		
	総会旅費	600,000	600,000		
	組織強化費	700,000	701,450		
	ホームカミングデー経費	150,000	102,723		
	備品費	30,000	0		
	消耗品費	130,000	62,664		
	会議費	30,000	0		
	振替手数料	270,000	208,573		
	事務嘱託費	2,320,000	2,329,577		
	備人費	10,000	0		
	HP維持費	80,000	75,350		
	雑費	20,000	11,705		
	OA機器整備費	50,000	50,000		積立 (資料3)
	名簿会計へ	1,000,000	1,000,000		
	予備費	2,229,414	0		
次年度繰越金		2,855,334			
合計	11,619,414	11,918,712			

収支差引額(令和5年度に繰越) 2,855,334円
(繰越金の内訳：銀行預金 2,752,131円、現金 103,203円)

2) OA機器整備費(積立)決算報告

	項目	予算額	決算額	摘要
収入	前年度繰越金	240,407	240,407	
	一般会計より積立 受取利子	50,000	50,000	2
	合計	290,407	290,409	
支出	次年度繰越金	290,407	290,409	
	合計	290,407	290,409	

(繰越金の内訳 ゆうちょ銀行 290,409円)

3) 特別会計決算報告

	項目	予算額	決算額	摘要
収入	前年度繰越金	13,319,567	13,319,567	
	定期預金(マリンバンク)利息		84	
合計	13,319,567	13,319,651		
支出	一般会計へ繰入金	3,000,000	3,000,000	
	次年度繰越金	10,319,567	10,319,651	
合計	13,319,567	13,319,651		

○特別会計資産内容

項目	資産額	摘要
郵便定期貯金2口(新規)	5,380,000	
銀行定期預金(マリンバンク)1口	4,939,651	
合計	10,319,651	

会計監査報告

北水同窓会の令和5年度における会計監査を実施した結果を下記のとおり報告致します。

記

1. 監査対象期間 自 令和5年3月10日
至 令和6年3月9日
2. 出納簿は、関係書類と対査の結果適正である。
3. 現金及び預貯金は、出納簿に照合し適正である。

以上

令和6年3月19日

監事 河原武則

監事 向井徹

令和6年度 役員改選案 (資料5) [○は新任]

会 長 横山 清 (昭35エ)
 名誉会長 都木 靖 彰 (昭59ゾ)
 副 会 長 吉野 生 壮 (昭37ゾ)
 樋口 達 夫 (々50食)
 代表理事 ○工藤 勲 (昭57化)
 学内理事 岸村 栄 毅 (昭60化)
 向井 徹 (々61ギ)
 亀井 佳 彦 (々61ギ)
 水田 浩 之 (々61ゾ)
 高津 哲 也 (々63ギ)
 安藤 靖 浩 (々63化)
 今村 央 (々63ゾ)
 大西 広 二 (平元ギ)
 坂岡 桂一郎 (々元ギ)
 高木 力 (々元ギ)
 山村 織 生 (々元ギ)
 田中 啓 之 (々元化)
 丸山 英 男 (々元化)
 澤辺 智 雄 (々元食)
 細川 雅 史 (々2食)
 山崎 浩 司 (々2食)
 東藤 孝 孝 (々2ゾ)
 小清水 直 宗 (々3ギ)
 宮下 和 士 (々3ギ)
 浦和 寛 (々3ゾ)
 工藤 秀 明 (々3ゾ)
 井尻 成 保 (々4ゾ)
 和田 哲 (々4ゾ)
 今井 圭 理 (々4化)
 山本 潤 (々5ギ)
 井上 晶 (々5化)
 平松 尚 志 (々5ゾ)
 ○山崎 篤 (々6ゾ)
 監 事 向井 徹 (昭61ギ)
 学外理事 山崎 文 雄 (昭33ゾ)
 米田 義 昭 (々34セ)
 小祝 良 介 (々36エ)
 河村 章 人 (々37ゾ)
 古井 恒 弘 (々37ゾ)
 麦谷 泰 雄 (々37ゾ)
 天下井 清 (々39エ)
 木村 昇 (々40セ)
 猪上 德 雄 (々41セ)
 上平 幸 好 (々41ゾ)
 山本 勝太郎 (々42ギ)
 河原 武 則 (々43エ)

池田 勉 (昭43ゾ)
 仲谷 一 宏 (々43ゾ)
 高橋 豊 美 (々44エ)
 工藤 昭 彦 (々44ゾ)
 志賀 直 信 (々44ゾ)
 山内 皓 平 (々44ゾ)
 三浦 汀 介 (々45ギ)
 三佐川 稔 (々45ギ)
 築田 満 (々45化)
 後藤 晃 (々45ゾ)
 原 彰 彦 (々46ゾ)
 中林 重 雄 (々47ギ)
 目黒 敏 美 (々47ギ)
 近江 政 斗 (々47食)
 土谷 俊 一 (々48ギ)
 坂本 幸 造 (々48食)
 桜井 泰 憲 (々48ゾ)
 吉田 正 人 (々48ゾ)
 吉野 威 (々49ギ)
 飯田 浩 二 (々51ギ)
 平石 德 (々51ギ)
 増田 泰 衛 (々51ゾ)
 矢部 孝 雄 (々53ギ)
 上野 晋 悟 (々53化)
 清備 孝 男 (々54化)
 尾島 村 暢 夫 (々55ギ)
 木広 崎 淳 一 (々55ギ)
 正川 悦 郎 (々55ギ)
 川合 祐 史 (々55食)
 宮岡 秀 昌 (々55ゾ)
 安井 肇 (々55ゾ)
 山羽 悦 郎 (々55ゾ)
 西川 正 一 (々56ギ)
 ○関 秀 司 (々57化)
 横山 信 一 (々58ギ)
 佐藤 直 孝 (々58食)
 ○宗原 弘 幸 (々61修ギ)
 今野 伸 司 (平元ギ)
 宮崎 永 司 (平元ギ)
 学外幹事 柳町 琢 也 (平4化)
 兵庫 隆 俊 (々5ギ)
 鳥海 滋 (々12資)
 岸元 祐 二 (々15海)
 島田 潤 平 (々23増生)
 木間 大 河 (々25海資)

地方理事 (稚内) 風 無 成 一 (昭41ギ)
 (留萌) 祐 川 正 幸 (々48ゾ)
 (紋別) 遊 佐 慎太郎 (々52エ)
 (網走) 葛 西 恭 博 (々53ギ)
 (根室) 野 別 貴 博 (平8ゾ)
 (釧路) 穂 積 明 (昭47ギ)
 (旭川) ○角 谷 靖 (々55ギ)
 (十勝) 梶 敏 (々44ゾ)
 (苫小牧) 木 村 実 (々48食)
 (室蘭) 矢 島 清 孝 (々45食)
 (札幌) 林 和 明 (々38ゾ)
 (札幌) 眞 田 篤 弘 (々43化)
 (札幌) ○遠 藤 俊 充 (々63ギ)
 (小樽) 亀 山 喜 明 (々63食)
 (余市) 宇 藤 均 (々45ゾ)
 (青森) 佐 藤 立 治 (々36エ)
 (八戸) 関 川 順 悦 (々55ギ)
 (秋田) 柴 田 彰 一 (々40ゾ)
 (村山) 山 田 洋 (々54ギ)
 (庄内) 佐 藤 本 勝 彦 (々61食)
 (盛岡) 藤 本 敬 久 (々62ギ)
 (宮古) 山 本 橋 禎 (々56ゾ)
 (釜石) 高 田 真 一 (平15海)
 (仙台) 稲 池 世 (昭53ギ)
 (石巻) 小 野 孝 二 (々56ギ)
 (気仙沼) ○小野寺 健 一 (々53ギ)
 (福島) 江 渡 辺 一 夫 (々47ゾ)
 (茨城) 澤 田 守 伸 (々54ゾ)
 (栃木) 未 定 健 治 (昭56食)
 (埼玉) 未 定 田 唯 (平24資化)
 (館山) 安 田 健 治 (昭56食)
 (銚子) 寺 沢 喜 雄 (昭56ゾ)
 (千葉) 佐 藤 定 樹 (々57化)
 (東京) 未 金 庭 正 修 (々50ゾ)
 (神奈川) 新 大 塚 咲 子 (平9ギ)
 (新潟) 菊 地 武 郎 (昭45エ)
 (長野) 木 嶋 賢 一 (々42セ)
 (静岡) 富 川 崎 田 裕 司 (々49ゾ)
 (富山) 池 富 永 修 (々56ギ)
 (石川) 池 富 永 修 (々56ギ)
 (福井) 富 兼 崎 英 勝 (々41セ)
 (愛知) 兼 崎 田 宣 雄 (々57ゾ)
 (京都) 滋 澤 石 川 輝 (平2ゾ)
 (三重) 石 川 輝 (平2ゾ)
 (大阪) 大 橋 人 司 (昭56ギ)
 (兵庫) 梶 原 慧 太郎 (平27海生)
 (和歌山) 丸 山 清 重 (昭55ゾ)
 (鳥取) 山 本 荣 一 (々52ゾ)
 (岡山) 鈴 木 伸 一 (々50ギ)
 (広島) 羽 原 浩 史 (々55化)
 (鳥根) 児 玉 太 一 (平12生)
 (関門) 萬 年 信 一 (昭37エ)
 (香川) 小 野 知 足 (々34ゾ)

(愛媛)	桑原彰三(昭53ゾ)	(長崎)	征矢野清(昭61ゾ)	(沖縄)	渡辺利明(昭52ゾ)
(高知)	蒲原幸男(々49ギ)	(熊本)	未定	(韓国)	李春兩(平3博ギ)
(徳島)	宮本孝則(平元ギ)	(大分)	武田晴美(昭56ギ)	(中国)	田元勇(々22応博)
(福岡)	村上憲男(昭51ギ)	(宮崎)	未定	(北米)	三浦明夫(昭53ゾ)
(佐賀)	高橋寛昌(平13海)	(鹿児島)	松岡達郎(昭52ギ)		

令和6年度 本部常任幹事 直通電話番号

市外局番(0138)

幹事	長	高津 哲也(昭63ギ)	40-8822	編集部	○和田 哲(平4ゾ)	40-5547
副幹事	長	○山崎 浩司(平2食)	40-5574		永田 淳(平26増生)	40-8810
庶務	部	○清水 宗敬(平3ギ)	40-8897	組織部	宮下 和士(平3ギ)	40-8856
		高谷 直己(平25資化)	40-5530		○平松 尚志(平5ゾ)	40-8878
会計	部	○井尻 成保(平4ゾ)	40-5617	事務局	吉田 秀美	42-3681
		辺 浩美(平29海資)	40-8802			

令和6年度 会計部予算案 (資料6)

1) 一般会計予算案

	項目	予算額	摘要
収入	前年度繰越金	2,855,334	1,700名見込み
	一般会社親潮広告取	6,800,000	
	雑収入	160,000	
		100,000	
	合計	9,915,334	
支出	親潮印刷費	2,100,000	(資料7) 親潮発送費(2回分)含む 大阪開催 ※
	通信・運搬費	2,000,000	
	総会旅費	800,000	
	組織強化費	700,000	
	ホームカミングデー経費	150,000	
	備品	30,000	
	消耗品	130,000	
	会議費	30,000	
	振替手数料	220,000	
	事務嘱託費	2,320,000	
	備人	10,000	
	HP維持費	80,000	
	雑費	20,000	
OA機器整備費	50,000	積立 (資料8)	
名簿会計へ費	1,000,000		
予備	275,334		
	合計	9,915,334	

※総会補助20万円、本部役員会補助7万円、卒業祝い品6万円を含む。

2) OA機器整備費(積立)予算案

	項目	予算額	摘要
収入	前年度繰越金	290,409	
	一般会計より積立	50,000	
	合計	340,409	
支出	次年度繰越金	340,409	
	合計	340,409	

3) 特別会計予算案

	項目	予算額	摘要
収入	前年度繰越金	10,319,651	
	合計	10,319,651	
支出	次年度繰越金	10,319,651	
	合計	10,319,651	

○特別会計資産内容

項目	資産額	摘要
郵便定額貯金2口	5,380,000	
銀行定期預金(マリンバンク)1口	4,939,651	
合計	10,319,651	

令和6年度 編集部予算案

(親潮発行)(資料7)

号数	発行年月日(締切り)	全頁数	印刷部数	印刷費	摘要
323号	令和6年8月末(7月10日)	本誌 28頁 (内カラー11頁)	7,800	1,050,000	※1
324号	令和7年2月末(1月10日)	本誌 28頁 (内カラー11頁)	7,800	1,050,000	※1
	合計	56	15,600	2,100,000	

※1 印刷会社:(有)三和印刷
印刷費には別刷り振替用紙代、消費税を含む。

令和6年度 組織部予算案

(名簿会計)(資料8)

	項目	予算額	摘要
収入	前年度繰越金	1,202,206	名簿積立金
	一般会計より繰入	1,000,000	
	合計	2,202,206	
支出	次年度繰越金	2,202,206	
	合計	2,202,206	

北水同窓会総会・懇親会報告 幹事長 高津 哲也(昭63ギ)



写真1：総会開会ご挨拶、横山清会長。

令和6年5月25日(土)、東京の学士会館で本同窓会の総会と懇親会が開催されました。総勢136名の同窓の皆様にご参加いただき、旧交を温めることができました。

総会ではまず、横山清会長からご挨拶いただき、「是非とも出席したくて、今日の午後の便で札幌から駆けつけた」ことが述べられました(写真1)。また特に若い会員で会長の経歴に詳しくない方向けに、会長が本学を卒業されてからこれまでの経歴を手短にご紹介いただき、昨年令和5年には北大で3人目となる北海道大学栄誉賞を受賞されたことも述べられました(親潮321号10頁、「本同窓会 横山清会長(昭35エ)が『北海道大学栄誉賞』を受賞」をご覧ください)。また昨年までは生涯現役と述べていましたが、今年90歳でアークスグループの社長から会長職に移ることになったとのことで、その情報を耳にした地元の新聞社が健康を疑って取材に来たが、「誤情報。ピンピンしている」と述べたこともご紹介いただきました。また横山会長は恵迪同窓会の理事長も務めており、そのご経験から、「同窓会は社団法人になると信用が高まるのか、寄附が増える。有効な増収策である」ことも述べられました。そして最後に、「北水同窓会幹事は今回、名簿発行を止める提案をしているが、継続は力なり、続けて欲しい。同窓会をさらに活性化して欲しい」とのご意見を賜りました。

続いて都木靖彰名誉会長(水産科学研究院長)から、北大の現状についてご紹介いただきました。具体的には、北大は今年文部科学省から、「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業」に指定され、農学部、水産学部、フィールド科学センターを核として北海道の食料生産拠点としての発展に、いっそう貢献してゆくことになったこと、また、水産科学研究院は令和4年採択の内閣府「地方大学・地域産業創生交付金」に加えて、本年度から長崎大学水産学部・琉球大学理学部と連携を強化した、「養殖を柱とした地域活性化のための人材育成事業(共創の場加速事業)」を開始し、いっそうの外部資金の強化に努めていることが紹介されました。また、函館キャンパスでは令和6年9月29日に、未来人材育成館の落成・開所式を行うので、OGOB各位にもご参加いただきたいことが述べられました。

総会議案は、赤字ではあるものの予算決算をお認めいただ

き、他に会費まとめ払い制度(詳細は後日ご紹介いたします)を開始することをお認めいただきました。一方で冊子による名簿の発行を、令和7年度を最後に廃止する提案は、アンケートの結果約10%の会員が継続を希望されていることから、完全に廃止することはやめて、希望者のみ別費用(¥5,000程度)でご購入いただく方式に変更することを提案し、お認めいただきました。こちらも詳細は後日お知らせいたします。

東京支部総会は、釜谷明幹事長の進行で議事が諮られ、無事承認されました。また次回の東京支部総会は、令和7年1月27日もしくは2月4日を予定していることが紹介されました(学士会館は建て替えのため、別会場を検討中)。

懇親会は、東京支部の樋口達夫支部長の乾杯で始まりしました(写真2)。乾杯前に樋口支部長からは、現在の日本の企業は、マグニフィセント・セブンを除けば米国企業と成長性に遜色はないこと、北水OGOBが活躍すれば現役学生や若手社員の励みになること、以前都木研究院長には函館の元町に北大のサテライトを作って欲しいことを要望したことをはじめとして、貴重な提言を賜りました。

懇親会は大変盛り上がり、OGOB各位、最新の状況に情報をアップデートできました。最後は東京支部の山岸健太郎氏の前口上で水産放浪歌を(写真3、北水同窓会Facebook、Instagram参照)、横田哲也氏の前口上で都ぞ弥生を歌い(同SNS)、岩井弘光東京支部監事のエール、舟木謙二東京支部副支部長の中締めでお開きとなりました(写真4)。

今回、ご参加いただいた皆様に対して、特に遠方からお越しいただいた皆様に変な感謝いたしております。また、開催ご準備ととりまとめをいただいた、釜谷明東京支部幹事長をはじめ東京支部の皆様、ここに厚くお礼を申し上げます。

令和7年度の総会は、現在のところ5月17日に大阪支部の皆様にお世話になって大阪で開催予定です。万博もありますことですし、皆様是非ご参加ください。よろしくお願いたします。



写真2：懇親会乾杯、樋口達夫東京支部支部長。

写真4：懇親会中締め、舟木謙二東京支部副支部長。

写真3：水産放浪歌前口上、山岸健太郎氏。

クラス会
報告

北水同窓会広島県支部会
2023報告

中山 奈津子(平15海)



写真(敬称略):後列左から 羽原浩史(昭55化)、永井達樹(昭48修漁)、長谷川昭雄(昭52ギ) 前列左から 中山奈津子(平15海)、黒田麻美(平24生資)、森岡泰啓(昭38ゾ)、伊藤 淳(平22ゾ)

北水同窓会広島県支部会2023が、令和5年11月18日(土)午後6時から、広島駅近くにある北海道の食べ物を楽しめる料理店にて開催されました。

羽原支部長のご挨拶および乾杯の音頭で開宴し、支部活動についての報告や参加者7名による近況報告が行われました。続いて、黒田麻美氏(平24生資)による講演『自己紹介とボランティア活動との出会い』と題して、広島県の水産分野でご活躍される日々の中、私生活においても目標を見つけて力強く生きる様を熱く語って頂きました。

黒田氏は、大学時代はプランクトン生物学講座において、有明海を中心に赤潮対策の一つである殺藻細菌の研究に従事されました。卒業後は、非常勤講師、放射性物質の毒性測定、遺伝子解析やワイン分析など様々なお仕事につきながら自分探しをされたのち、広島県に入職されて、再び赤潮の対策に携わることになりました。その後行政職への異動を機に、社会との繋がりに関心を持たれ、世の中に貢献したい、もっと視野を広げたいという思いから、ボランティア活動に携わることになったそうです。子供達や外国人のお世話を通して、自分自身の世界が広がっている、と意気揚々と話してくださいました。さらに、国際交流にも関心をお持ちで、日本の県別外国人人口や広島県の在留資格別外国人人口などのデータをご自身でまとめられ、今後の国際交流に向けたボランティア活動に活かしたいと目を輝かせてお話されていたのが印象的でした。

黒田氏のお話を肴に世代を超えた議論が活発に交わされました。少人数でも大宴会、今年の支部会も話が尽きることなく非常に盛り上がり、あっという間に楽しい時間が過ぎました。英気を養った後は、次年度も同時期に開催すること、皆さん健康で過ごすことなどを約束し、閉会となりました。

北水同窓会京滋支部
令和6年度総会報告

澤田 宣雄(昭57ゾ)



写真:左から、内林善彦(昭和55食)、近藤忠裕(昭54化)、内田美徳(昭46ゾ)、大寄良孝(平元食)、西川一義(昭46ゾ)、澤田宣雄(昭57ゾ)、高木正夫(昭62ギ)、山根 猛(昭55博)

北水同窓会京滋支部の令和6年度総会を、令和6年3月30日(土)午後5時30分から滋賀県大津市で開催し、8名の出席がありました。

昨年は新型コロナが5類に移行した後の5月20日の開催でしたので、本年は例年の4月開催を検討しましたが、諸々の都合で3月末の開催となりました。

総会では、令和5年度の事業報告、収支決算と令和6年度の事業計画を上程し、承認していただきました。

意見交換では、京滋支部の集まりに、もっと若い会員など少しでも多くの会員が参加できるような工夫ができないか、今後様々な検討をしていくこととなりました。近隣の支部など他支部の活動を参考にしていきたいと思えます。

懇親会では西川一義先輩(昭46ゾ)の乾杯の音頭で開会となり、懇親を深めつつ楽しいひとときを過ごしました。

瞬く間に時間が過ぎ、最後に、肩を組んで「都ぞ弥生」「永遠の幸」「水産放浪歌」を全員で歌い、お開きとなりました。

青森支部令和5年度総会報告

山口 伸治(昭49化)



1列目左より

二本柳茂(昭57ギ)、天野勝三(昭54ゾ)、原口健二(昭47ゾ)、渡邊修一(特別会員)、菅野溥記(昭37ゾ)、池田 康(昭51ゾ)、西宮 攻(平23応修)

2列目左より

佐々木理栄子(平6化)、佐々木建一(平6化)、野呂恭成(昭57ゾ)、川村俊一(昭56ギ)、山中崇裕(昭62ゾ)、吉田達(平元ゾ)、福田 覚(平15博増)、
對馬廉介(昭59ギ)

3列目左より

宮部好克(平23資化)、中山 凌(平25海生)、蛭名 浩(平2ゾ)、東野敏及(平11生)、中山智治(平4ギ)、山口伸治(昭49化)

北水同窓会青森支部の令和5年度総会が、令和5年12月2日(土)にアートホテル青森(青森市)にて、21名のご参加のもと、令和2年2月以来3年振りに開催されました。

総会に先立ち、令和4年に亡くなられた故秋葉文和(アキハフミタカ・昭37ギ)様と令和5年に亡くなられた故田向健二(タムカイケンジ・昭30ギ)様のご冥福をお祈りして全員で黙祷を捧げました。

次に、山中崇裕支部長(昭62ゾ)から支部長挨拶のあと、事務局から新入会員並びに結婚など慶事について報告がなされた後、議事に入り議案第1号令和5年度活動計画及び収支予算(案)、議案第2号青森支部規約(改正案)と慶弔規程(改正案)の審議が行われ、出席者全員により承認されました。

総会終了後に、会員による講演会が行われました。第4回目となる今回は国立研究開発法人海洋研究開発機構むつ研究所 所長佐々木建一氏(平6化)から、「フロンで探る海の動き」と題して講演をいただきました。大気中の

フロン類は、海の表面水に溶けて、熱塩循環によって中・深層に運ばれることを受けて、同フロン類をトレーサとして地球温暖化による海洋の深層循環を可視化するため、地球規模の過酷な海洋連続観測とフロン分析装置の開発などに取組んでおられることに一同感心いたしました。

続いて集合写真を撮影した後、吉田達監事(平元増)の挨拶、菅野溥記氏(昭37ゾ)の乾杯のご発声で開宴し、ご参加をいただいた21名お一人ずつから自己紹介と近況報告がなされるなど和気あいあいで楽しい酒宴となりました。

最後に参加者全員で肩を組みながら、二本柳茂氏(昭57ギ)の前口上で、「水産放浪歌」と「都ぞ弥生」を大合唱した後、小生からの万歳三唱で閉会となりました。新型コロナウイルスはまだ終息とは言えない中で、令和5年度総会にご参加をいただきました会員の方々に感謝を申し上げて報告いたします。

北水柔道部、第6回「漁火会」の集い

吉田 康祐(昭44化)



【北斗市 ホテル秋田屋にて】上段左より 小城 春雄(昭44ゾ)、大谷 晴夫(ギ 中退)、伊藤 迪男(昭44ギ)
 中段左より 後藤 道夫(昭46ギ)、安村 恵司(昭44食)、町野 剛(昭43化)
 下段左より 吉田 康祐(昭44化)、三浦 廣美(昭45ギ)、原口 健二(昭47ゾ)、宮野 興志郎(昭47ギ)、中山 豊光(昭43ギ)、
 岸 敏雄(昭47食)

「函館で、久しぶりに漁火会やろうぜ！」会員の声が届いてきたのは、3月のまだ雪の消えない季節でした。思えば前回実地(2018.12.1)から早6年！未曾有の「コロナ禍」で自粛の日々でしたが、やっと落ち着いてきた今こそだと有志一同にて、6月3～4日、函館での実地を決定致しました。

この日、当日の函館は雨まじりの寒い日でしたが、遠く関西からも含む総勢12名かって「北水柔道部」の猛者



「きじひき公園」(遠く、市内と「函館山」を望み)

の皆様！今や好々爺になり懐かしの顔！顔！何より、我ら柔道部の恩師「河野辰五郎先生」のお墓参りと、立待岬にある先生のお墓に集結し周辺を清めお花を添え読経ご冥福を一同でお祈り致しました。

その後、懐かしい函館の街並みを通して、北斗市のホテル会場に集結しました。定刻6時、まずご逝去された恩師河野先生、同窓佐藤(建)様、軽部様、川島様、安倍様のご冥福を祈り黙祷の後、久しぶりに懐かしい「水産放浪歌」を高らかに唄い6年ぶりの会を開始いたしました。乾杯の後、安村様より「漁火会」(一回～五回)の詳細な記録と写真の説明があり一同感激！美酒を重ね、学生時代にもどり時間を忘れての楽しい宴となりました。一人ずつの近況報告、談論風発の中で大いに盛り上がった事は①とにかく、コロナコロナで家に閉じこもりだった事②ほとんどの皆様が一線をリタイアされ何より健康が第一である事③皆、大なり小なりの人生ドラマをかかえ何とか今日ある事④柔道を若き日にやった事は一生の宝⑤函館は第二の故郷——等等、杯を重ねしみじみと語り合いました。

締めは恒例の「オス！」幸い他の部屋の宴会等が無く、

クラス会 報告

久しぶり学生時代にもどり蛮声張り上げて交換致しました。会場ホテルでの一泊泊まりでしたのでその後部屋に集まり深夜まで昔話が花が咲きました。特に幹事伊藤がPCを持ち込んで学生時代の懐かしい写真に一同懐古と笑い



「トラピスト男子修道院」へ(朝一番、心を清めて)

に大いに盛り上がりました。

翌朝は気持ちよく晴れ渡り!幹事三浦の尽力により、近郊をクルマ2台に分乗し楽しいドライブとなりました。まず「きじひき高原」に到着、山頂からの函館山、歴史に包まれた市内全景に一同うっとり!思い起こせば懐かしき、連絡船!北洋漁業!赤い灯青い灯松風大門!そして懐かしの母校!と思いは尽きずでした。

せっかくの機会だからと、その後「トラピスト男子修道院」に全員で足を伸ばしました。静寂と荘厳な佇まい、遙か彼方に津軽海峡!一同心を洗われた一時でした。解説書で修道士様は朝3:30起床、夜8時就寝を知り一同日々を深く反省?

無事帰還して美味朝食後、幹事より次回は2年後、再び函館に集合を提案!それまで元気で頑張ろうぜに大きな拍手!名残惜しく函館の地を後にしました。

青森支部令和6年度総会報告 山口 伸治(昭49化)



前列左から 川村俊一(昭56ギ)、山口伸治(昭49化)、金澤保(昭56化)、天野勝三(昭54ヅ)、渡邊修一(特別会員)、奈良岡修一(昭47ギ)、又井一宣(昭37ギ)、原口健二(昭47ヅ)、佐藤健一(昭47工学部:オブザーバー参加)、瀧谷和彦(昭47ヅ)
後列左から 東野敏及(平11生)、田澤亮(平16シ)、中山智治(平4ギ)、二本柳茂(昭57ギ)、小谷健二(平13生)、山中崇裕(昭62ヅ)、二木幸彦(昭56ギ)、吉田達(平元ヅ)、對馬廉介(昭59ギ)、伊藤良博(昭53ヅ)、折野和樹(平27海生)、福田覚(平15博増)

令和6年6月22日、青森支部令和6年度総会が、23名の出席のもと、青森市内のウエディングプラザアラスカで開催されました。

総会は山中支部長(昭62増)の挨拶に続き議事に入り、令和5年度活動報告、会計報告、次年度活動計画など、一連の議事が承認されました。

総会終了後、講演会に移り、地方独立行政法人青森県産業技術センター水産総合研究所・小谷健二氏(平13生)から、「陸奥湾のホタテガイ養殖業の現状と課題」について講演

をいただきました。ホタテガイ養殖業が抱えている課題解消に向けた水産総合研究所の取組みについて説明を頂き、今後の試験研究に大いに期待を抱かせる講演内容でした。

続いて、奈良岡修一氏(昭47漁)の乾杯の発声で懇親会が始まり、ご出席された方々からの近況等の報告があり、暫しの歓談と楽しい一時となりました。

最後に、参加者全員で肩を組み輪になって、「都ぞ弥生」を声高らかに熱唱し、小生からの万歳三唱で閉会となりました。来年度はより多くの皆さまに参加していただきたいと思います。

追悼寄稿

佐藤 立治氏(昭36エ)を偲んで

足助 光久(昭40ゾ)



去る令和6年3月5日に元北水同窓会青森支部長の佐藤立治氏(昭和36年遠洋漁業学科卒業)が急逝(行年86歳)された旨、当支部事務局から連絡を受け大変驚くと共に学生時代にラグビーで鍛えた頑強な体の同氏が亡くなったとは全く信じられませんでした。遺されたお嬢様やご遺族の無念さをお察し誠に残念に思います。

同氏は、卒業と同時に青森県庁(水産商工部漁政課)に奉職して以来、ほぼ一貫して本県水産行政に携わり平成11年3月末に水産部長を定年退職されました。この間、青森県東京事務所勤務等を経て、水産事務所長、水産課長、漁業振興課長、水産試験場長、公営企業局理事(県営浅虫水族館長)の要職を歴任されました。定年退職と同時に、それまでに培われた行政手腕から請われて県出納長に就任されました。同窓としては初めての県三役就任であり、1期4年の任期を務められ平成15年3月末に退任されました。

同氏との出会いは、私が昭和42年水産試験場から漁政課に転勤した時からで、係は違っても同窓の先輩ということで存じ上げていましたが、昭和43年に私は新しく発足した水産増殖センターに異動し、海藻や磯根資源関係の仕事に長く携わっていくこと

になったため、直接的な仕事上の繋がりが少なくなり疎遠となっておりました。

そして、私は18年間同センターに勤務後、行政に異動を命じられ数々の職場を経験しましたが、佐藤氏の水産部長在職中には議会資料の作成に関与するなど仕事上の繋がりが増えると共に、出納長時代には予算要求などで援護をいただくなど大変お世話になりました。また、私が定年退職した際には佐藤氏と同期の吉田康夫氏のご支援により魚礁関係の企業に再就職することが出来、同窓先輩の有り難さを身に染みて感じたところです。

また、佐藤氏と道内へ出張した帰りの寝台列車の中では、買い求めた北大寮歌集のCDに耳を傾け、かつての懐かしい学生時代に浸っておられた姿が思い出されます。

同氏は、長年の地方自治功勞により、平成24年春の叙勲で瑞宝小綬章受章の榮に浴されたことから、同窓の先輩及び後輩が發起人となり同年8月26日、青森市のホテル青森において盛大な受章祝賀会を開催しました。

一方、かねてより当時の佐藤支部長から提案のあった当支部機関紙「親潮青森」を平成19年7月から月1回発刊することになり、毎月第一火曜日にお嬢様の経営するカフェレスト「雅」にて昼食会を開くことにしました。寄稿された原稿は同氏が纏め、目次作成後バインドし必要部数をコピーして配布するといったものでした。新型コロナの蔓延により会食が制限されるまでの足掛け10年間続けられましたが第121号をもって終刊になりました。今振り返ると10年間長く続けられたと思うのと毎月発刊となると題材を探すのにいささか苦勞した記憶が残っています。

さらに、コロナ禍の前までは、毎年4月1日に本庁勤務の同窓が中心となって開催していた昼食会に参加し、後輩を指導・激励していました。

この様に佐藤氏は仕事、スポーツ、趣味など多くの分野にアグレッシブに取り組み多大な足跡を残されました。ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

□学位取得者【令和5年度3月取得】

江口 剛	魚類の推進機能性と個体間の流体力学的相互作用に関する研究
永谷 奈央	ウトウ雛における短期 長期飢餓に対する生理的・形態的応答
朴 正祐	Long-term changes in small size-class contribution to total phytoplankton biomass in the northern Chukchi to northern Bering Seas (北部チュクチ海から北部ベーリング海における小型植物プランクトンの寄与の長期変化)
小林 哲也	低温増殖性芽胞形成菌の性状と要冷蔵加工食品の保存性を向上させる加熱殺菌条件に関する研究
駿河谷諒平	チョウザメ類卵濾胞における排卵能獲得誘導の分子機構に関する研究
山口 耀	Studies on immunochemical and molecular biological characterization of novel urinary proteins of Sebastes rockfish and its application to aquaculture (メバル属魚類における新規雄尿タンパク質の免疫化学的及び分子生物学的性状解析並びにその水産増養殖への応用に関する研究)
リ ブンシュウ	Study on the enhancement of anti-inflammatory effect using uronic acid-type glycation in fish protein (ウロン酸修飾を活用した魚肉タンパク質の抗炎症機能改変に関する研究)

□令和5年度 修了者(博士・修士)・卒業者(学部)の就職先一覧

博士

環境省／東京都台東区／ディボネゴロ大学(インドネシア)／北海道大学大学院水産科学研究所／京都大学農学研究科
長崎大学海洋未来イノベーション機構／地方独立行政法人北海道立総合研究機構／地方独立行政法人青森県産業技術センター
焼津水産科学株式会社

修士

京都府／茨城県／香川県／和歌山県／松前町／国立研究開発法人科学技術振興機構／独立行政法人国際協力機構(JICA)
一般財団法人日本食品分析センター／一般財団法人日本気象協会／株式会社NSソリューションズ中部
日本原子力防護システム株式会社／双日株式会社／株式会社 Works Human Intelligence／株式会社キョーリン／関西電力株式会社
株式会社ニトリ／株式会社日本政策金融公庫／株式会社KSK／グロープライド株式会社／プリマハム株式会社／ソニー株式会社
北海道電力株式会社／パシフィックコンサルタンツ株式会社／ダイハツ工業株式会社／全国農業協同組合連合会／株式会社JTB
東京電力ホールディングス株式会社／株式会社ニッスイ／いであ株式会社／株式会社雪国まいたけ／株式会社東陽テクニカ
東芝デジタルソリューションズ株式会社／パシフィックコンサルタンツ株式会社／北海道電力株式会社／光村図書出版株式会社
森永乳業北海道株式会社／株式会社講談社／鴨川シーワールド／トヨタ自動車株式会社／テーブルマーク株式会社
株式会社リオ・ホールディングス／三井化学株式会社／フジッコ株式会社／コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社
宝ホールディングス株式会社／東洋水産株式会社／ハウス食品株式会社／ポラ化成工業株式会社／株式会社日清製粉ウェルナ
日清食品株式会社／株式会社フジキン／株式会社シマノ／株式会社ノエビア／日本食研株式会社／トヨタ自動車北海道株式会社
株式会社アイリスオーヤマ／キリンホールディングス株式会社／不二製油株式会社／株式会社ニトリ／伊藤ハム株式会社
株式会社湖池屋／日本農産工業株式会社／アイリスオーヤマ株式会社／フジクリーン工業株式会社／住友化学株式会社
株式会社日本政策金融公庫／株式会社COC／北海道電力株式会社／ヨタ自動車株式会社／株式会社電通国際情報サービス
日清丸紅飼料株式会社／日本食品加工株式会社／株式会社アウトソーシングテクノロジー／株式会社ジェーシービー／資生堂株式会社
カルビー株式会社／トオカツフーズ株式会社／日清エンジニアリング株式会社／株式会社ニッポンジーン
日清食品ホールディングス株式会社／株式会社極洋／アサヒ飲料株式会社

学部

経済産業省北海道産業保安監督部／厚生労働省／厚生労働省新潟労働局／農林水産省／北海道／千葉県
 公益社団法人北海道栽培漁業振興公社／株式会社RDC／株式会社ROXX／江別製粉株式会社／楽天グループ株式会社
 株式会社バイロール／株式会社インソース／株式会社プレジール／株式会社システムコンサルタント／株式会社共栄システムズ
 北海道電力株式会社／株式会社マイナビ／カルビー株式会社／エイターヘルスケア株式会社／株式会社商工組合中央金庫
 日糧製パン株式会社／日鉄物流株式会社／株式会社アウトソーシングテクノロジー／株式会社江ノ島マリンコーポレーション

□会員異動

○令和6年4月1日付 採用

上野 洋路 大学院水産科学研究院准教授を同教授に採用
 笠井 久会 大学院水産科学研究院准教授を同教授に採用
 藤本 貴史 大学院水産科学研究院准教授を同教授に採用

| 親 | 潮 | 投 | 稿 | 規 | 定 |

【寄稿、支部・会員便り、会員の受賞、ご案内など】

一つの投稿につきA4版・1ページ(2000字程度)までとする。この制限以上の長文あるいは連載を希望される場合は2号分までとする。写真を入れる場合、その分の文字数が減る。また写真はホームページに掲載することもできる。原稿は、同窓会宛に封書で郵送するか、同窓会のメール宛に送付することとする。

【同窓生の声】

各種活動や出版物の告知・紹介、本誌への感想など。個人的な連絡は対象とせず、1記事につき300字以内。同窓会あてのメール(hokusuialumni@gmail.com)にて受け付けます。写真は入れられません。

[編 集 後 記]

今回の特集では、新任の若手教員を紹介するため、該当の先生方に記事を執筆頂きました。新任の先生方が赴任したことで、これまで行われていなかった新しい研究が始まっています。こうした活動を通して、北水の教育・研究活動は益々発展していくものと考えております。

次号「親潮」令和6年度2号(通算324号)の原稿締め切りは2025年1月10日とさせていただきます。寄稿につきましては、郵送もしくは電子メール(hokusuialumni@gmail.com)にて受け付けております。その他、支部報告や同期会報告、著者の紹介など、多くの原稿をご投稿下さいますようお願い申し上げます。なお、親潮では同窓の方々の交流形態として「同窓生の声」の広場を設けております。また、本誌に対するご意見やご感想なども募集しております。詳しくは投稿規定をご参照ください。

また、支部総会や同期会の開催時の写真や開催案内を北水同窓会のホームページ(<http://Hokusui.net/>)にて掲載しておりますので、是非ご覧ください。

編集幹事／永田 淳(平26増生)

令和6年8月発行
北 水 同 窓 会
 〒041-8611 函館市港町3-1-1
 TEL & FAX.0138-42-3681
 E-mail:hokusuialumni@gmail.com

会員死亡通知

鈴木 誠司	(昭18ヨ)	令和4年 7月	ご家族様より
北浜 仁	(昭22ゾ)	令和6年 4月 2日	ご家族様より
米沢 達也	(昭23セ)	令和5年12月17日	ご家族様より
岸高 凡平	(昭24ギ)	令和6年 6月28日	ご家族様より
松苗 廣治	(昭25ギ)	平成24年 4月24日	ご家族様より
安田 泰三	(昭25ギ)	令和6年 1月23日	ご家族様より
廣崎 芳次	(昭25ゾ)	令和6年 4月16日	柴田 勇夫(昭39ゾ)様より
渡辺 國夫	(昭26ゾ)	平成26年 4月 4日	ご家族様より
竹沢 浩	(昭28エ)	令和6年 2月13日	ご家族様より
寺地 潔	(昭28ゾ)	令和6年 4月14日	ご家族様より
佐藤 貢	(昭29セ)	令和6年 2月 4日	ご家族様より
配島 佑行	(昭29セ)	令和5年11月12日	ご家族様より
坂井 美久	(昭30ギ)	令和6年 3月 5日	ご家族様より
野澤 一太	(昭30セ)	令和5年12月 2日	ご家族様より
佐藤 公	(昭31セ)	令和6年 4月10日	ご家族様より
小川 平吾	(昭33ギ)	令和4年 7月 7日	小山 一成(昭36ギ)様より
佐藤 武夫	(昭33エ)	令和6年 5月14日	梶原 潔(昭33ギ)様より
鈴木 隆三	(昭33エ)	令和6年 5月22日	ご家族様より
寺田 良勝	(昭34セ)	令和5年12月 8日	ご家族様より
若杉 康	(昭35セ)	令和6年 5月18日	ご家族様より
佐藤 納	(昭36ギ)	令和5年 6月 4日	山下 豊(昭36ギ)様より
飯塚 光江	(昭36エ)	令和6年 6月10日	石川 光男(昭36セ)様より
佐藤 立治	(昭36エ)	令和6年 2月28日	青森県支部様より
宮島 祐輔	(昭36セ)	令和5年12月	ご家族様より
宮崎 礼	(昭37ゾ)	令和元年頃	久保田 正(昭37ゾ)様より
西村 典恭	(昭38エ)	令和6年 5月 4日	宮城県支部様より
坂本 浩輔	(昭39エ)	令和6年 5月13日	天下井 清(昭39エ)様より
寺崎 秀信	(昭39セ)	令和5年 7月	ご家族様より
橋爪 武司	(昭40セ)	令和5年	ご家族様より
水越 忠義	(昭40セ)	令和5年11月	ご家族様より
磯石 克教	(昭41ギ)	令和6年 2月16日	ご家族様より
川名吉一郎	(昭42ギ)	令和5年 1月	ご家族様より
濱田 讓	(昭45ギ)	令和5年 8月14日	兼崎 英勝(昭41セ)様より
藤井 孝弘	(昭45食)	令和6年 3月17日	ご家族様より
落合 幸二	(昭48ギ)	令和6年 1月30日	石嶋 久男(昭48ゾ)様より
濱田 哲郎	(昭54ギ)	令和6年 4月16日	ご家族様より
荒木 隆夫	(昭54化)	令和5年12月17日	伊藤 修一(昭60化)様より
大塚 哲哉	(昭56ゾ)	令和4年 9月14日	ご家族様より
安田 広光	(昭58食)	令和6年 2月12日	大淵 喜隆(昭58食)様より
内藤 一明	(昭58ゾ)	令和5年 9月14日	佐々木義隆(昭63ゾ)様より
成田 尚史	(昭59化)	令和6年 1月22日	久保田 正(昭37ゾ)様より
千葉 恭一	(昭62化)	令和6年 2月10日	千葉(若栗)麻理子(昭63化)様より
鷹見 達也	(昭63ギ)	令和5年 6月25日	佐々木義隆(昭63ゾ)様より
島本 和也	(平27資化)	令和3年 2月14日	ご家族様より

相続 離婚 債務整理 交通事故 労働問題 会社顧問

相談料は全て無料です

吉原法律事務所

札幌弁護士会 弁護士 吉原美智世 (昭和48年増殖学科卒業)

お気軽にお問い合わせ
合わせ下さい

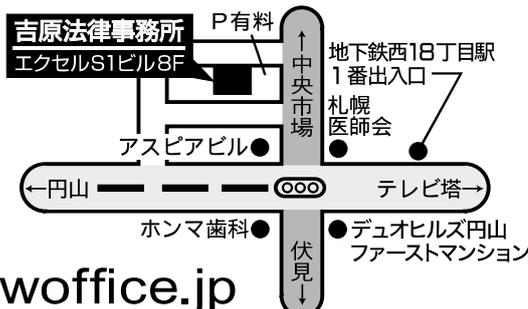
TEL 622-7963 FAX 622-8414

札幌市中央区大通西20丁目2-20
(エクセルS1ビル8F)

交通

東西線西18丁目地下鉄1番出口

E-mail lawyer@yoshihara-lawoffice.jp



営業時間においでになれない方はご相談下さい。

人工魚礁による水産資源の保護・増殖に貢献します

海洋土木株式会社

〒142-0043 東京都品川区二葉2-1 1-5

代表取締役 吹原正彦

専務取締役 幡宮輝雄 (57歳)

青森営業所長 山口伸治 (49歳)



FP魚礁



カルペース付き
FP 1.5G



オクトム

増毛 マゾイ・ミズダコ



株式会社 竹田食品

代表取締役 竹田 寿広

営業所：札幌・東京・大阪・福岡

本社工場：北海道函館市浅野町3番10号

TEL：(0138)43-1110(代)

HP：https://takeda.hakodate.jp/

魚に感謝したい。

魚の価値を真剣に見極め、求められる人に求められる形で届けていく。
魚を大事にする思いがあれば、水産業は、まだまだ、世の中に貢献していける。
釣八は、海と人が共存できる水産業を目指しています。



株式会社釣八 代表取締役社 釣見泰之(昭59漁)

【水産学部卒業社員】

水井 修(S58 漁) 太田 松太郎(S59 漁) 橋本 浩典(S59 漁) 倉部 徹(S60 漁) 土井 倫行(S60 漁)

本社

〒104-0042 東京都中央区入船一丁目2番1号 PMO八丁堀IV8F
TEL:03-3297-8883 FAX:03-3297-8885

支社

八戸支店(青森県) 銚子支店(千葉県) 大阪支店(大阪府) 福岡支店(福岡県)

関連会社

(株)釣十(豊洲/マグロ仲卸) (株)いかめし阿部商店 札幌蟹販株式会社
フィッシング8(ロサンゼルス) 大連釣八(中国/水産加工)

外国人人材を あなたの会社にご紹介します。

(株)グローバルスタッフィングは、ミャンマーの教育・送り出し機関である
アンダマンエイト社と共に、優秀な海外人材を募集・教育し、ご紹介しています。
水産・食品業界を熟知した私たちが、最適なマッチングをお約束いたします。



Global*
Staffing

株式会社グローバルスタッフィング (釣八グループ:人材支援機関)

代表取締役社長 釣見泰之(昭59漁) 取締役副社長 橋本浩典(昭59漁)

本社

〒104-0042 東京都中央区入船一丁目2番1号 PMO八丁堀IV8F
TEL:03-6228-3078 FAX:03-6228-3578



アンダマンエイトAndamanEight Co.,Ltd (釣八グループ:人材送り出し機関)

No.55A, Khayayyeikthar St, Mingalardon Garden City, Mingalardon, Yangon

